

○鈴鹿市長コメント

本日、一般国道23号 中勢バイパス（鈴鹿市北玉垣町～同市野町）の4工区（延長2.8km）及び一般国道1号 北勢バイパス2工区の一部（延長4.1km）のそれぞれ事業中の区間について、国土交通省より、中勢バイパスについては令和5年度、北勢バイパスについては令和6年度、との開通見通しが出されました。

このことについて、御尽力いただきました国、県、関係国会議員の皆様にご心よりお礼申し上げます。

鈴鹿市では、これまで中勢バイパス建設促進期成同盟会、北勢バイパス建設促進期成同盟会、鈴鹿四日市道路建設促進期成同盟会および関係機関の皆様と共に、中勢バイパスと北勢バイパスの必要性を強く訴えてきました。

今回、中勢バイパスの開通見通しが出され、令和5年度には鈴鹿市北玉垣町から松阪市小津町までの全線が繋がる見通しがたったことは、中勢バイパス沿線の企業にとっても大変待ち望んでいたことであり、交通環境の改善はもとより、産業支援や生産性向上にも大きく繋がるなど期待されているところです。

また、北勢バイパスについても、（市）日永八郷線から国道477号バイパスまでの開通見通しが出されたことで、令和2年度に事業化された鈴鹿四日市道路と早期に繋がり、南北の骨格軸が整備されダブルネットワークとして機能することで、ものづくり産業の盛んな三重県北中勢の経済発展、国道23号や国道1号の渋滞緩和による移動時間の短縮及び事故減少、さらには南海トラフ地震などの大規模災害の発生時においても災害に強いルートの確保など、市民生活における安全・安心の観点からも極めて重要な役割を果たすこととなります。

今後、鈴鹿市としては、「防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム」に基づいた道路整備の推進を図るため、引き続き国や県、そして地域関係者と連携し、円滑な事業進捗を図ることができるよう全力で取り組んでまいります。

令和3年4月27日 鈴鹿市長 末松 則子